

ダウン症の書家・金澤さん、白鳥で席上揮毫

希望に満ちた書力強く



ダウン症の書家として知られる金澤翔子さん(28)の席上揮毫(きこう)が、郡上市白鳥町の白鳥ふれあい創造館で行われ、集まった市民ら約350人を前に大筆で力強い書を披露した。(古家政徳)

30日まで同館で開催された「金澤翔子書展」と現代国際絵画展(岐阜新聞・ぎふチャンネル後援)の関連イベント。主催した同町の障害者支援組織「ふなの木福祉会」が、障害を乗り越え一流書家の仲間入りを果たした金澤さんを招いた。

当初の定員200人を超える大入りの会場へ大きな拍手で登場した金澤さん。「慈」「愛」

母翔子さん(左)に見守られながら、紙に大筆を運ぶ金澤翔子さん。郡上市白鳥町、白鳥ふれあい創造館

「慈」「愛」の2文字

の2文字を一画一劃丁寧に筆を運んでいった。

「夢がある。30歳になったら一人暮らしする」筆を置いた後、はつらつと語った金澤さん。母親で書家の泰子さんは「おなかの中の子がダウン症と告知されたときは悲観に暮れ、生まれた後も一緒に死のうと日記に書いていた。でも泣きながら育てていたら、翔子が涙をぬぐってくれた。とてもいい子だった」と振り返った。

「障害者には希望がないと勝手に思い込んでいたけれど、希望も絶望も健常者と等しく用意されている。効率を求める社会の基準でなく、根源的な人間の営みで見れば障害は大きな問題じゃない」と力を込め、「過保護にせず力を信じて、どんなこともやらせてあげてほしい」と障害のある子どもを育てる親たち、エールを送った。